

# 核廃絶 訴える広島

## 「核抑止論は破綻 直視するべきだ」

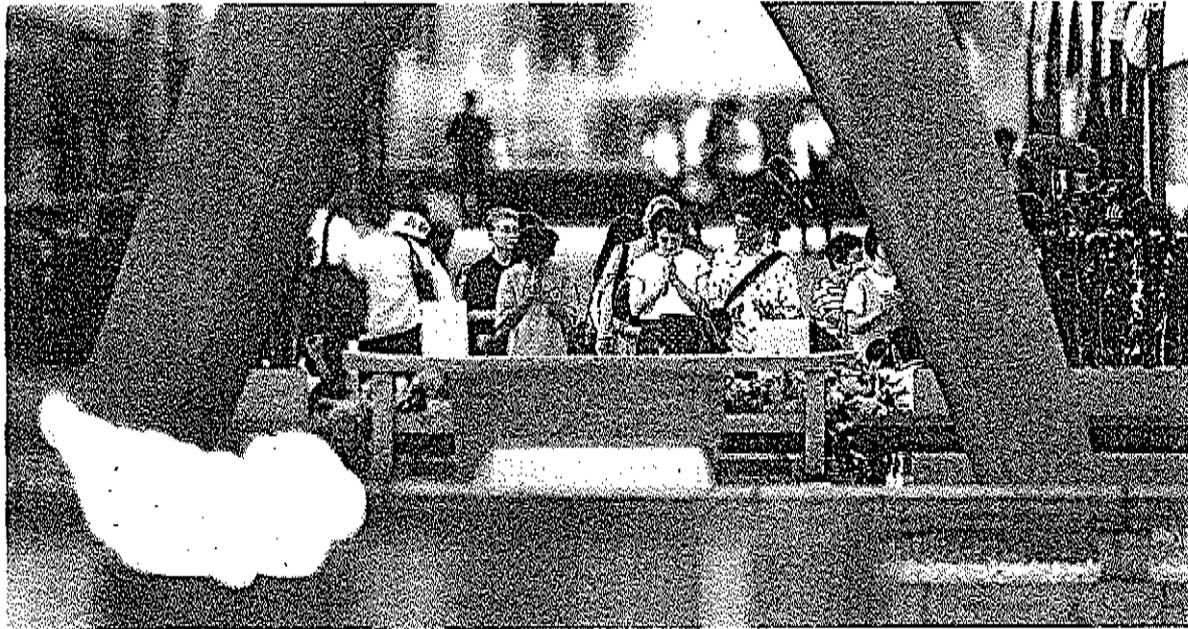
米軍による広島への原爆投下から78年となった6日、広島市の平和記念公園で、平和記念式典が開かれた。5月に広島であった主要7カ国首脳会議（G7サミット）後、初めて迎えた「原爆の日」。松井一実市長は平和宣言の中で、サミットで発表された核軍縮に関する「広島ビジョン」が肯定した核抑止論に言及。「世界中の指導者は核抑止論は破綻している」と直視するべきだ」と訴え、核抑止論からの脱却を求めた。▼2・3面Ⅱ開けぬ視界、6面Ⅱ社説、20面Ⅱゲンは問う、26面Ⅱ平和宣言・首相あいさつ、27面Ⅱ平和への誓い」

## 被爆78年市長が平和宣言

地元選出の岸田文雄首相は式典のあいさつで「核軍縮をめぐる国際社会の分断の深まりやロシアによる核の威嚇により、道のりは一層厳しい」と評価した。松井市長は平和宣言で、日本政府に核兵器禁止条約の早期署名や批准、11月にある締約国会

議へのオブザーバー参加を求めたが、岸田首相はあいさつで同条約に言及しなかった。被爆者団体の代表との対話では「重要な条約だが、核兵器国が行動しないと何も変わらない」と述べ、慎重な姿勢を示した。

式典には被爆者や遺族「ことも代表」ら約5万人が参列。原爆投下時刻の午前8時15分に「平和の鐘」が鳴らされ、黙禱を捧げた。過去最多となる111カ国の駐日大使らが参列した。（興野優平）



原爆投下から78年の朝を迎え、原爆死没者慰霊碑に手を合わせる女性らⅡ6日前5時15分、広島市中区、田辺拓也撮影